

左近山ビュッフェ ～新しい集いの形を～

第一期整備地区は、どの街区からもアクセスがしやすい中心部分に位置しています。この空間で、多世代の人が、多様なアクティビティを可能とする「新しい集いの形」を提案します。名付けて「左近山ビュッフェ」。この地区に作る、プールをリノベーションした大きなテーブルと、テーブルの延長線上に一列に並ぶ様々なユニット達により、まるで沢山の料理の中から好きなものを少しずつ楽しめるビュッフェのような団地空間を生み出します。子育て環境は、与えられるものではなく作っていくものです。左近山ビュッフェも、好きなものを少しずつ並べ、みんなで作っていく。そしていずれは団地全体にも広がる。左近山ビュッフェは左近山団地に彩りをもたらす第一歩となります。



「たくさんの種類を少しずつ」



プールの横幅に合わせて作られた、一列に並ぶユニットでは、畑・花壇・水場や、子供たちが遊べるように芝生・砂場・黒板などにして利用していく。畑と花壇は団地近くの農業協同組合に協力してもらい、連携して管理を行う。畑の品種や花の種類は、面積内で栽培可能なものであれば住民の要望を反映させる。申請をすればこのユニットの一部を団地住民に貸出すことができるシステム。まるでバーコードのように整然と並ぶこの景観は団地のアイコン的存在となる。

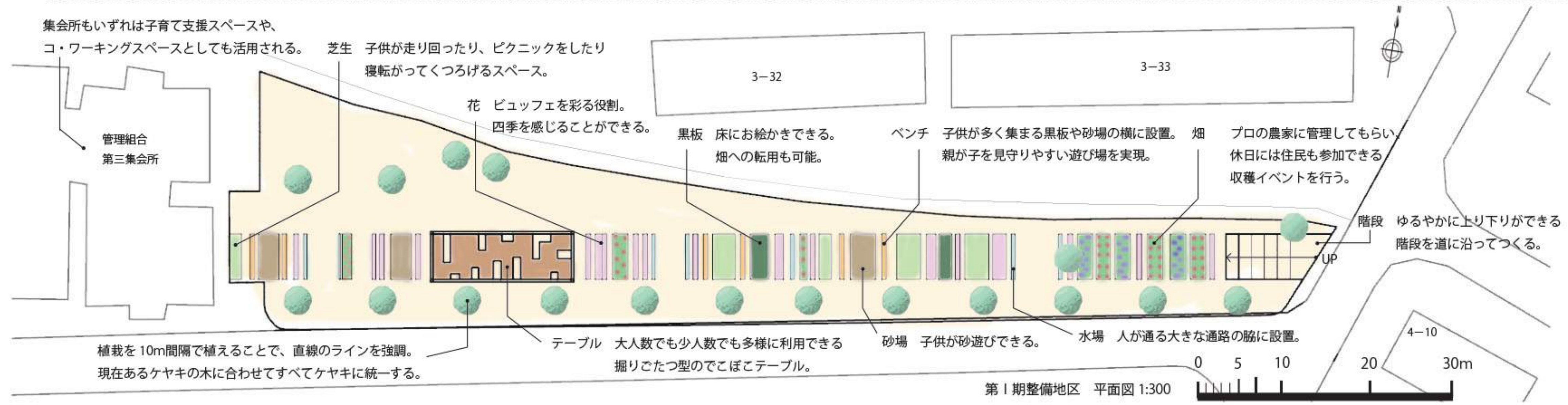
「水を蓄える」から「人を蓄える」場所へ



テーブルというのは「集い」の象徴。プールを利用しない期間は、プールの外枠に座って椅子代わりにし、様々な世代の様々な人々が集うことができる広いテーブルへ変身させる。プールは語源的に「蓄える場所」という意味を持つ。「水を蓄える場所」から「人が蓄えられる場所」へとリノベーション。食事をする人、おしゃべりをする人、宿題をする人、PCを開いて仕事をする人、休憩をする人…など、幅広い世代の人々が色々な目的で集えるテーブルにして、今までの左近山にはなかった憩いの場を形成する。

会話をするママ友
 打ち合わせをするサラリーマン
 絵本の読み聞かせ
 食事する親子
 休憩するおじいさん達
 宿題をする子供たち
 PCで作業する人
 お絵かきする子供

大人数でも少人数でも、好きな場所を自由に使える。アクティビティもさまざま。



つい写真を撮って SNS に投稿したくなるような、インパクトのある景観を創造。外に出て歩き回りたくなる空間を生み出す。「こんなにおもしろい、たのしい所があるんだ!」と思わず他の人にも見せたい左近山ビュッフェに。

左近山ビュッフェ・エクスペリエンス

第1期整備地区の「経験」を左近山団地全体に少しずつ移植していく。全体から入るマスタープラン型整備ではなく、良いことを少しずつ増やしていく方法の整備の可能性を考える。また、子育てなどの社会問題を室内空間だけで解決することには限界がある。可能な限り外に出て、緑溢れる団地の空気を呼吸して、すれ違った人々で軽く挨拶することが大切。そして、それが続くための基本は「たのしくできる」ことだ。そこで、私たちは「経験」を左近山団地全体に広げるため、また、住民がたのしく外に出られるようにするために、以下の提案をする。



ほしいものを少しずつ

芝生空間を活かした少量多品種農園運営。畑をしたい、団欒をしたい、外で仕事をしたい等の様々な希望に合わせて、団地の芝生に移植する。

インスタグラム・ランドスケープ

子供からお年寄りまで安心して身体を動かせる環境をつくっていく。遊歩道に距離などの利用者ごとの運動目標を道などに目盛化、見える化することで住民が動くきっかけをつくる。そういった素敵な写真が撮れる外部環境をつくりこんでいくことによって写真を撮って SNS などに投稿して、たのしくなる仕掛けをつくる。

結果として、左近山団地中央地区にコミュニティ活性化と子育て世代の呼び込みになる。



ほしいものを少しずつ
左の写真は中央地区北側にある団地の前の芝生である。現在はしっかりとメンテナンスがされていて綺麗だが、ここで何もしないのもったいなく感じる。



インスタグラム・ランドスケープ
中央地区内の歩道である。自然が豊かだが、隠れる場所が多く人目が少ないなどの防犯上心配という声があり、危険そうだ。

下の写真は第1期整備地区の「経験」が中央地区の団地前芝生に移植された写真。大人と子供、あるいは大人と子供と一緒に畑仕事をしたり、座って子供を見守る母親。住民の要求に合わせてストライプ状のユニットが何になるか決まる。このように中央地区の外部空間に第1期整備地区の左近山ビュッフェの要素が広がり、住民が自然とたのしく外に出られるようになる。

下の写真は素敵な外部環境をつくりこんだ結果の写真。歩道に運動目標を目盛化したラインが設置され、道端にきれいな花が植えられた。住民はそのラインに沿って歩いたり、走ったり、素敵な写真を SNS に投稿したりしてたのしむ。まずは住民が安心してたのしめる環境を整える。外の空気を呼吸し、すれ違う人々が挨拶することからコミュニティ活性は始まる。



横浜市は保育施設をつくって待機児童問題を解消してきた。待機児童のゼロ化成功・子育て世代の居住者が増えるなど、その取組みは十分に評価できる。一方で、保育所等に預けることで子供と親と一緒にいる時間が短くなってしまっている。

少子化が更に進行していくことを考えると、保育施設の必要性は将来的には減っていく、子育ての問題の長期的な解決にはつながらない。左近山団地が「持続的な子育て環境」を持つために、空き家を活用した新たな工夫・コミュニティのありかたを提案したい。

親が近くにやってくる

近居 - 家族・友人による見守りの多様化を支援する団地の在り方

デイリー・ウィークリー・マンスリーとさまざまな期間で利用できる住まいを空き家を利用して提供する。困った時に、家族・親族・友人が子育てを支援できる環境をつくる取組。お互いに自立しながらも、頼り合うことには抵抗のないシェア世代の子育て感にフィット。子育てを手伝う親世代だけではなく、左近山団地に住む高齢の親を世話・介護する子のための一時的な住まいにも活用する。親・子・孫の多世代や友人などの周囲を巻き込みながら子育てや介護をしていくために空き家の民泊的利用をすすめる。



空き家活用のイメージ

職場が近くにやってくる

職住近接 - 親の働き方の多様化を支援する団地の在り方

在宅支援型コ・ワーキング

在宅就業を支援するオフィス機能
+
小さな託児所



託児所のイメージ

シェア・サテライトオフィス

民間企業が共同で空き家を活用
共用オフィスを運営



シェア・サテライトオフィスのイメージ

シェア・ミーティングスペース

ビジネスにもコミュニティにも
対応した貸会議室



シェア・ミーティングスペースのイメージ

駅や職場への交通アクセスが悪い左近山団地に「電車に乗って職場に行く」以外の働き方ができる環境を空き家活用により整える。職住近接を実現させ、子供と親と一緒にいる時間を増やす。「コミュニケーション不足」や「仕事とプライベートとの境界線が無い」などの在宅ワークを行う人特有の悩みをコ・ワーキングスペースや託児所によって解消し、「働きやすく子育てしやすい」団地にする。子育て中の在宅ワーカーだけではなく、将来子育てをするであろう若い在宅ワーカーにも入居してもらいたい。

左近山団地再生コンペ概算見積書

名称	数量	単位	単価	金額(円)	備考
撤去工事	1.0	式		5,000,000	
土工事	1.0	式		7,000,000	残土運搬処分費含む
造園工事	1.0	式		5,500,000	張芝、既存樹木撤去含む
ビュッフェ畑等工事	1.0	式		15,500,000	畑整備、給排水設備等含む
砕石地業、舗装工事	1.0	式		10,000,000	浸透性舗装仕様
ポール改修工事	1.0	式		4,000,000	木製テーブル等
照明、備品工事	1.0	式		3,000,000	
※残土運搬処分 購入土 場内運搬 概算					
合計				50,000,000	